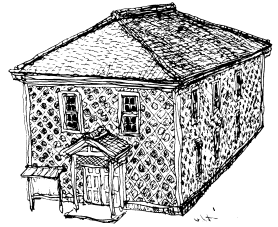


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

戸山芳昭 とやまよしあき

医学部創立100年を迎えて—その原点と挑戦

2017年、医学部は創立100年を迎えます。今日まで、慶應医学は先人達の努力により、私学の雄として日本の医学界を先導してきました。慶應医学の原点は、福澤先生の『贈医』“無限の輸贏。天また人。医師道を休めよ。自然の臣なりと。離婁の明視と麻姑の手と。手段の達するの辺。唯是れ真なり”と、北里柴三郎初代医学部長の“我等の新しい医科大学は、多年医学界の宿弊たる各科の分立を防ぎ、基礎医学と臨床医学の聯繫を緊密にし、学内は融合して一家族の如く……”にあります。

今、慶應医学は創立100年、そして次の100年に向け、原点を振り返り、世界に冠たる大学病院、総合医学府の構築を目指し、塾と一体となって改革に取り組んでいます。ソフト面では、チーム医療展開への初期教育として医・看・薬3学部合同カリキュラムの構築や総合医療情報システムの導入・推進、厚生労働省から認定（全国8施設）された臨床研究中核病院としての事業展開、病院機能・経営改革等に教職員一丸となって取り組み、ハード面では、悲願である新病院棟建設と事業募金

100億円を目指し努力しているところです。引き続き、義塾中のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

この新病院棟完成後には、医学・薬学・看護医学部が一体となり、基礎と臨床医学に予防医学が融合し、官・民とも強固に連携した新たな信濃町キャンパスを実現させるつもりです。そして、新しく生まれ変わった大学病院では、再生医療や遺伝子治療、低侵襲治療等の高度先進医療を展開し、日本中から、さらにアジア各国から多数の患者が紹介されてくる「アジアの拠点病院」を目指したいと思えます。加えて、世界に向けて慶應医学から素晴らしい基礎・臨床研究の成果が次々に発信されることを願っています。

この創立100年を機に世界と戦える慶應医学の基盤を構築し、次の100年、素晴らしい環境の下で思う存分活躍してくれる若手に、慶應医学の将来を託したいと思います。そして次の100年には、ノーベル医学生理学賞受賞者をぜひとも慶應医学から出したいたいです。